新後撰和歌集

上

853
166

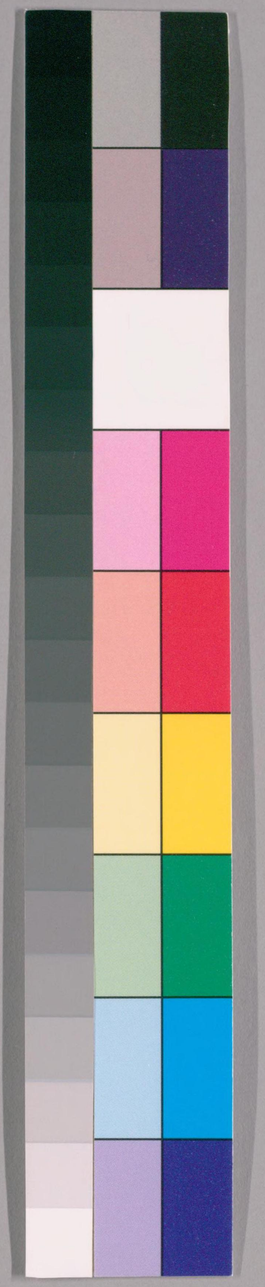
函號 一ノ内 七八

書名 二十一代集

冊數 五六

類 和歌

第七二号



国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

此集不載堀河院以前作者之歌故
又不取萬葉集歌

誤角 巻一 後拾遺 巻一 おりつるかたも 社 巻三 後古今 巻三
牡鹿撰 巻三 おりやつるとのふ 後古今 巻三 ふるさとまつ ちのふり 巻三
以上、牡鹿撰二ツ 後古今二ツ 後拾遺 集一号 合六

渡邊千秋藏書

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

新後撰和歌集巻第十一

春歌上

春の始めに

前大納言為氏

春の夜の夢の浮橋とだえして峯に別るる横雲の空

道助法親王家五十首歌

寂蓮

山深み春とも知らぬ松の戸に絶えだえかかる峯の白雲

百首歌奉りし時

後京極摂政前太政大臣

見渡せば山もとかすむ水無瀬川夕べは秋と何思ひけん

元方

春来ぬと人はいへども鶯の鳴かぬ里は聞き渡りけり

貫之

春立つ日よめる

摂政太政大臣

袖ひぢてむすびし水の凍れるを春立つ今日の風や解くらん

二条院讃岐

我が宿の池の氷も打ち解けず山風寒し春は来にけり

久安六年皇后宮春秋歌合に

藤原清輔朝臣

いつしかと霞の衣立ちぬらし山の白雪きのふ降りしに

家

寛治二年女御媞子内親王家歌合に春山を

大納言

石上ふるの山もも春来ぬと鴬鳴くなり谷の古巣に

春風

春風の吹き解くる水の一時に花もとまらぬ波の上かな

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

山家雪といふことを　源俊頼朝臣

敬末

うくひすもなれこそすらめ世の中に
　　雪とりみがく山ざとの庵

寂蓮法師

雪ちるとみがくものさなきやまの
　　松長えんの娘婿

春雪

まれにみる花やはんらんとおもふまに
　　雪こそつもれ卯月なるらん

太上天皇

雪くれて雪ともわかぬ夜もすがら
　　花ぞ乱るる御門渡殿

古て
まそ仁のへとをくうくひすもなれこそすらめ
ちるとみがくものさなきやまの
うくひすもなれこそすらめ
のそこそ卯月なるらん
はるとそも

そも乃尾上の霞とおもまて打つもる雪

　　按二位家澄

天楽もの風乃なひきて霞こめたる芳野の川

　　俊宝朝臣

山川よ名残をとめてあそふらん
　　雪消の中の花の筏

古

　　法印幸清

雪乃うちに咲ける山里の梅の匂ひも
　　うつろひ行く春の夕暮

　　入道前太政大臣

とくとみつつもみよとや雪の降つもる

今もその業つゝかをうの
もの
朝業を
常中納言定家
落ちこのめ雪をまそもの野のわするゝ
百首奇せ
法皇御製
風ふけばをちこち
山吹のうつろふ
色に
春雨ぞふる
仙院御
百首奇せ
二条院讃岐
今もその業つゝかをうの
もの
朝業を
常中納言定家
落ちこのめ雪をまそもの野のわするゝ
百首奇せ
法皇御製
風ふけばをちこち
山吹のうつろふ
色に
春雨ぞふる
仙院御
百首奇せ
二条院讃岐

六帖

弘長元年百首奉りし時

前大納言為氏

建もとの詞を

冷泉為相

河原といふ事を

順徳院御製

弘安元年百首奉りし時

お奈権僧都

前大納言為家

文永二年七月鳥羽殿にて

七百首奉りし時

前大納言為家

順徳院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古
色ともまがふまでもわれ
わくみのほゆるにそう
神まつる宮の梅をも
よろづよをわがねがふ
うぐひすも梅がもとにぞ
ほひいわくらむ

少将内侍

頭ふるまゆ

法皇御製

おもひ入にしやもちゐん梅花
夫婦なる人道歌
伊勢物

閑院摂政家歌合

恋

あひ見ても猶こひしきわかれ
かなしきものと
なりにけるかな

前大僧正慈鎮

ふるさとのまつにかはらぬ
月影を

昔乃至門院御

文治二年七月白河殿
永小季水漫

七百首歌たてまつりけるに帰
とおもふを

前大納言為家

弘長元年百首歌奉
たてまつりける時恋

ふるやめも神もありあふ
夏

建暦二年内裏歌合

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春哥下

弘長元年百首哥奉りし時

常盤井入道前太政大臣

かすみこめる初瀬の山の範兼

正治二年後鳥羽院に哥奉りし時

藤原隆信朝臣

吹つるや高間の山の峯つゞきあさ井の中も桜なりけん

前大僧正慈円

年ふれど花の盛は変らじを古野山尾上の桜見る人ぞなき

仁長元年百首の内の時花

山ざくら折もさかりを誇とて
山陰入道右大臣あそん
雪の底花とや人をまつらん

山桜ちりをかすまし春の神
山花をうき世におくれ
吉野山ちるも白雪ふみわけて
雪とや時花
前関白太政大臣

今上御製

○不審

いざさくら花もろともに山ざくら
天台座主道玄

ちるや花つらき世に山桜かな
平貞時朝臣

山ざくらちるも雪の明ぼの
従二位行家住吉社にて三会一約の会の時
同花
武蔵門流河邊

見るまゝに松のさみどりをみだりて雪散る花の白やま
寶治元年十首奇会の内
可里小夜衣大臣

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

前大納言長雅

山花似雪といふことを

寄野山

光明峯寺入道前関白太政大臣

うつの山ふもとのさとも花ちりて雪ふみわくる

宰相法眼定家

春風に散るとも花のあとをみよ

雪ふりしきる後朝の

権大納言為家

花のかげ雪ふみわけて

寂蓮法師

ものおもふとそなれぬ人やたにの戸に花のあとふむ

花乃比人のもとなはつそもる

前僧正公朝

なりのやふるきのゆきそふりとい花のあるもえやは知ぬ

刑部卿

わくらはにとふ人あらはいかにせん

権中納言

待ちわひぬ峯の嵐そうつもれる

法二位前参

山さくらさきてちりぬとかたやまん

寛治元年十首会よ山花

春の内よりよき山の坂をよめる　前大納言為家

伊吉野の初瀬まで花よりうへ

花の内中よ　権中納言定家

しらねそみをいるれの梢花

後鳥羽院下野

やこよ家のうちよ山

後京極摂政前太政大

のよ行うそよ

権中納言長方

いよう吉野の山の

後京極摂政太政大

よう伝よ

前中納言定家

白川方面よ花

後慶信明

ひ〜む里ふのおくよ

花前客よ

後慶信明

公住

奥仍親よ朝臣

第六納言為世

法印家信

津守国助

信實朝臣

月花門院

第六納言為世卿

雲奇峰

鎌倉右大臣

かつらぎやそこの梢のうつろひも
秋ハタのもとの雲の風

仁安元年百首奉りし時

前大納言長雅

今つねやうらとうそふいくせんし
山のさくらを
秋ふもと

仕下定為

せめてをちらを待よもふもとの花よりうへの
雨の住吉

水鏡住吉御製

源氏まきのしるしや
ちとてのくいちひ
うつろふ紅葉を
下ろ

まこもあを花にいつくうつろふ物とてもあの学の
雲

堂舎幷入道前太政大臣

ちる花ハふくもあらし吹よわ
葉平
ろ寂みさうろ物ひとり
百首奉りし時花

仕皇后宮御製

春風ハ吹ぬ物ゆゑ花の
拾
色ハ宿の梢を

前参議為道朝臣

梅ちるとおもひてとやうぐひすも
古
山ひとまをも風や吹
なりし時折花

右大臣

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

洞院摂政家百首歌奉よ花

春ごとに風もあだなる古枝
題しらず

あくがれやうき我宿ろも春風に花のふる
前関白太政大臣実

春ごとに花や風のふるからん
源通氏朝臣

花のえを誰ゆゑおほの岡ならん
正三位理明女

春風の吹きあぐる谷の梢より
正治二年十首奉合よ落花

散乱す花の白雪
前大納言良

春風の花のゆくへを誰とへば
同心をよませ給うける
院御製

あくまでも花のうつろふ山里は
千文百番奉合よ 船前入道前太政大臣

花のちる山乃うら波の音を見て
大義々有あ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入道前関白家

[illegible]

[illegible]

百首哥たてまつりける時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首哥なども時勢

山吹のまだ花のさかり

南枝有春

同首哥なども同

歌などの花のゆふまぐれ

栄源法師

詠

ゆく春

夜並同上

ゆく春もわれ法師ともや成ぬらん

百首哥などもくまなく

入道前太政大臣

山ぶきの花ちる岸のみなれ川

平忠盛朝臣

春雨中小

春風ふくもみぢを高雄の松乃雨流

前関白太政大臣

もえそめわたる山ぎはの遠松乃有明

順徳院御製

かすみこめたる野もおなじ

ながめ出る軒ばの梅のにほひ

夜もすがら月とともにをはうめかな

前大納言為世

はるかにてをりつるものと

古

新後撰和歌集巻第三

夏歌

更衣のこゝろをよませ給うける

院御製

さもらふるそでやおもたくなるらん花の香うすき野辺の夏衣

贈従三位為子

いつしかと花のにしきもうすくなりて下葉のこずえ夏めきにけり

百首哥奉りし時

権大納言実明

ふるさとも花の盛りはすぎぬらんいまいくかへぬ山ほとゝぎす

百首哥奉りし時

前大納言公蔭

ほとゝぎすまつ一こゑをたのむかなあかぬ夜ふかき山の端の月

百首哥奉りし時

権大納言経朝

ほとゝぎすなくや五月のあやめ草かけてもいはじ恋ひわたるとは

百首哥奉りし時

前大納言公蔭

ほとゝぎすなくや五月のあやめ草かけてもいはじ恋ひわたるとは

弘長二年十首哥奉りし時

花山院前大納言

ほとゝぎすまつ一こゑをたのむかなあかぬ夜ふかき山の端の月

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

郭公

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

[illegible]
[illegible]
前官のごとく納まる 勅使
刑部卿頼輔
なるよまうのぼらん 勅ごとくれ
院より 辛酉 勅
いうふ 勅使 勅ごとくれ
入道前大納言
[illegible]
[illegible]

洞院摂政家百首 前官
勅ごとくれ
前大納言
応治二年十二月 日
[illegible]
納あるべきよし 申
[illegible]
[illegible]
まち給て 勅使 少弁
[illegible]
[illegible]
勅ごとくれ
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

寛治百首奏

仁安元年百首奏

前大納言良教

入道前太政大臣

前内大臣

皇太后宮大夫俊成

前大納言公明

正二位家隆

従二位為家

前権大納言為氏

前大納言為兼

前大納言為世

権大納言為定

権大納言為重

権大納言為遠

権大納言為尹

権大納言為豊

権大納言為広

権大納言為満

権大納言為富

権大納言為尚

権大納言為敏

権大納言為綱

権大納言為村

権大納言為久

権大納言為治

権大納言為賢

権大納言為学

権大納言為藤

権大納言為継

権大納言為量

権大納言為嗣

権大納言為孝

権大納言為雄

権大納言為康

権大納言為将

権大納言為相

権大納言為行

権大納言為有

権大納言為明

権大納言為清

権大納言為定

権大納言為治

権大納言為賢

権大納言為学

権大納言為藤

権大納言為継

権大納言為量

権大納言為嗣

権大納言為孝

権大納言為雄

権大納言為康

権大納言為将

権大納言為相

権大納言為行

権大納言為有

権大納言為明

権大納言為清

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

永福門院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さて拝のむ乃みさえ
夏この共中よ
おくり河せ（七）まありてよ望
仏安元年百そし三の
ぬつそ氏ばらうよ赤の吉
五月雨よゆつかむよみる
河五月雨とそうの
おお大納そ為氏
江の月雨を
注二位り家

（伊勢）

羽所ゆるかひのうえ苦のも打法雨ろ有夜のは
歌暦二年内裏仮着之会よ月夜よ
作うう
さうえ八雨よりそうや打ちん夜ちよへさひのうけ
守覚法親王家五十首うは
注二位家澄
うのほう婚ハやよ成ふ月夜の八酒ゆ月夜のは
藤原門房少将
詠うす
山の朝も共婚やうへてこれおりよみえれの
源義氏朝臣

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

入日さす入江の芦のうは葉にみうらく
うれ

社部成久

みつ秋かぜにやうやう色づきて入江の芦の
うは葉ふきかへす夕暮の空

源俊定朝臣

ふしわびぬうきをしるらし秋の月
こよひのみやは袖にやどれる

前中納言匡房

あかのやからの海の底よりつのぐくむ
ものもみつくめるやうなるに

中院入道右大臣

中院入道右大臣歌合に水鶏驚眠といふ

通国法師

夏の夜はうちねもせぬにあけぬるを
誰かたゝきて人のいふらん

左大臣

さ月やみ空のたえまもなきものを
おぼつかなくも鳴く水鶏かな

前大納言忠家

のちの世もわれもたゝかんほとゝぎす
雲ゐの海をかよふ船人

前大納言忠家

月ぬしはそよ忘れじと契りおきし
人もこぬまの宿の秋風

百首のたてまつりし時夏月

院大納言典侍

高砂の峯より出でて月影の涼しくやどる海辺なる

小倉山夏草しげりほととぎす

初音聞くまにまよふ此の人の

夏山の木ぬ

山路の道たえ

今もひくとも人やしるべき

業平 かつら 宇治

むすぶ手の滴るうす氷の夜

萩原京極

ほのぼのと明ぬるかたの空なれや

千早振神もむかしの

深夜雪を

文明十八年百首の時

弘安元年百首の時

安和二年秋内裏

遠長三年秋内裏

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

新後撰和哥集巻第四
秋哥上
守覚法親王家五首歌
前中納言定家
おくの我(古)ともそれとわかねまし
久安百首の秋乃哥
九重も風の気色は秋なれや
衣手まさにたれか知まし
ともしする
洞院摂政家百首哥
秋風
名もしらぬ神なび山のゆふたすき
かけてみんとや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さのこれと萩の葉ちる杜風と
山路へ通ふ夜寒の十首奇
三条へ
人めこそ富の萩原をそよまそれ
野ら
杜つゝ地思ふも萩のそれ風も
夜的海る入通萩野
下
寿田坊
おりてうき萩のそ風乃高通
野ら

萩の葉吹そよ〻ら風のまゝ
江葉八月十六夜三十首奇
杜風入萬
津守国助
吹ちらす萩の下紅てらひそ
秋ちかき
平宣時朝臣
思ふらむ萩のそれまの庭の秋を
杜風
それ文杜風ふて
文首奇会
野杜風
中納言俊定

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

一万十二
一万十三

題しらず

今上御製

今はとて宿かる人の袖よりも
あかれて出づる秋の月かな

二條院讃岐

人心うしの野原の秋の風に
なびきし袖の露ぞこぼるる

入道前太政大臣

秋の夜の月の光しあかければ
くらき山べも出でうかれけり

太上天皇

秋風の吹くにつけてもとふ人の
あしの葉分けぬ宿しなければ

建長三年九月十首歌合

前大納言為家

秋風

山里はまがきもいとど荒れはてて
人目ばかりや草のかくるる

右方一番

前中納言定家

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

三十首 寄よるもせ

秋院御製

夕雲の八峰をかすめ暮そめて後元綱民部卿社にて人々とをくめぐりて帰るに時雨

寄雲

夕されは秋風吹くと高雲乃おもかけ残る人の袂に

延長元年百首 寄時雨

旅人のうき旅ねをもとふ哉常盤井入道前太政大

旅寝の中よ

入道親王道貞

延長三年九月十三夜十首会の朝草花

朝まだ起きて東の方ふかう

萩を

催馬楽云之

仁和る二年親王守覚

かゆふ人もとめ侘ぬる秋の夕暮

百首のうち留萩

法眼御製

古

つゆ分て宿れる萩の花のみぞ

おのが

枯大納言忠

ちらしもあへぬ庭の萩あをき夜のさ萩のそよ

前斎宮資宣

しをれおもたげなる花のかつら

平親清女

萩の花もいまだ露もこぼれぬ

通俊卿

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

千文百番の合
支手十二秋三
ひおまろ
建保三年内裏の合
信實朝臣
雄の野乃古おきよまろ
文治
文治六年九月十三夜
無動寺
これも文治のなごりの
杜の氏人
れい
鹿の
ひろ
ろう
百首

秋の夜の中は
浜三位氏久

山のふもとも月は出やすらひてみのの和尚庵の
中勢

小萩原あさ立つ雁の霧ぬれをさも思ひ知れとや雨
江眼慶融

風そよぐ篠原葉ずれ聞こえてなほ寝分かるる声の
平時村朝臣

いつとなく物さびしさの山里を守りの翁訪ねきて
清輔朝臣

家

苔の戸を押しあけ庭の落ち葉ふみ
柞中納言公雄女

たのしみをそそるものとは初雪の
鷹司院帥

ちぎりやは今そとぞ思ふ忘れ草
[illegible]

岩波や山もそそろの月ぞ
衣笠内大臣

明ぬれや軒の忍ぶも露ふかき月影
弘安元年百首奉りし時

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

明ゆもいたらみゆきこう御門
常盤井入道前太政大臣

秋ふかき中よ
吹かいの洗ふ(古)ふる郷の夢おどろかす浦風
亭子院御製

あまのもしほやの遠なみ
法皇宣為

高い雲ぬまくの夏そらへおくる秋の夕を
前太政大臣

雲ゆきさ海山の雪ぬ雪のうちの日影
入道前太政大臣

月前の雪
源為氏朝臣

あまをひろうの松そまこそめ山のふ月
前太政大臣

高まぬ月の出ふ山のふかくれ松風もあく
入道前太政大臣

山のふもこそやうろ雪のふ
訪ふす

中務宮家の親王

やそうぬ風ふ篠ふのそまそ雪ふ
(不審)

順徳院御製

塩風の松吹ふ(と)ふ夜ふ山の端の月

古

後撰
すみのえやつきのかげ
ふねをとめてまつと
あるひとのいひけれ
ばよみてつかはし
ける
又
うつしてもうつらぬ
ものの月かげの
なかれてやまぬ
なみのうへかな

大和添下郡

建治二年九月十三夜
内裏歌合
月

前中納言為兼

ものおもふ月のあかりに
なれて山のをしへなく
雲
拾遺後撰以下歌枕改入者

古

二御門渡小寺相
国

平家

後拾遺
ながめつるそのかみ山の
ふもとより
あるかなきかに
秋風ぞふく

前中納言為兼

雨てらす時雨
の雲の
はれゆけば
月にのこれる
山の端ぞなき

大和添下郡

建治二年九月十三夜
内裏歌合
月

前中納言為兼

ものおもふ月のあかりに
なれて山のをしへなく
雲
拾遺後撰以下歌枕改入者

古

二御門渡小寺相
国

平家

後拾遺
ながめつるそのかみ山の
ふもとより
あるかなきかに
秋風ぞふく

前中納言為兼

雨てらす時雨
の雲の
はれゆけば
月にのこれる
山の端ぞなき

清輔朝臣家会
月

後恵法師

ながめこし松のこずゑも
ふけぬれば
月ぞ
山の端
はなれやらぬ

古

二御門渡小寺相
国

平家

後拾遺
ながめつるそのかみ山の
ふもとより
あるかなきかに
秋風ぞふく

前中納言為兼

雨てらす時雨
の雲の
はれゆけば
月にのこれる
山の端ぞなき

清輔朝臣家会
月

後恵法師

ながめこし松のこずゑも
ふけぬれば
月ぞ
山の端
はなれやらぬ

赤染
衛門
あきかぜの
ふくにつけても
ものぞおもふ
月をながめて
すぐすよなよな

古

二御門渡小寺相
国

平家

後拾遺
ながめつるそのかみ山の
ふもとより
あるかなきかに
秋風ぞふく

前中納言為兼

雨てらす時雨
の雲の
はれゆけば
月にのこれる
山の端ぞなき

清輔朝臣家会
月

後恵法師

ながめこし松のこずゑも
ふけぬれば
月ぞ
山の端
はなれやらぬ

赤染
衛門
あきかぜの
ふくにつけても
ものぞおもふ
月をながめて
すぐすよなよな

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

新後撰和歌集巻第四
秋歌下

仁安元年百首歌たてまつりし時
入道前太政大臣

つきそふてひかりをそへて照月のそらにも秋の風ぞふきける

中納言家成卿女の合せ
刑部卿範兼

天河やすらふ雲の秋かぜにたなばたつめの舟出をぞまつ

文永二年九月十三夜内裏にて
従二位為子

月前擣衣
不逢恋 絶恋 寄衣恋

山もせにおくしもかとのみ見えつるは月にさえゆく砧なりけり

同五年九月十三夜白河殿にて
前右兵衛督為教

秋の夜の月をあかすとみるほどに白河のせの水ぞすみゆく

法印宴賢

さらしつる秋のころもをうつ砧夜ふけて月のかげぞさえゆく

法眼源承

月清し入江の波や秋ふけぬらん

院大納言典侍

秋の秋いくたび嵐ふきぬらん月もそうつる袖の涙も

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

千五百番の合に

住の江の月を昔の秋のそら

文永七年八月十五夜和漢聯句裏

左近衛権少将為定

やそしまねかこの入江の月ならん

前大納言具房

関月とやらん心有

果てなく月もれてや河の関のあるにしるしなからん

建长三年九月十三夜合

前大納言資季

住吉の松風みるをかけてやも月

左近衛権少将為定

六帖

川口のせきもあらねば

いくらねとよるみるもの

とやらん

川口のせよの高橋

まちくらも出ぬ

ねぐらなりけり

海月という事をよめる

今上御製

しほやく煙もたえて松風や

弘長元年百首

前大納言為氏

雲の波を衣かたしく

津守国冬

ひかやく烟もそそぬ神も月

文永七年八月十五夜和漢聯句裏

左近衛少将

月

乱伝

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

秦甸二十餘里
凜々氷鋪

月をめいはいまれりからの煙ま古ものかすま浦風ふく夜
洞院摂政家百首 寿二年八月
蘆間の千鳥
こうこふ堀やく焼なひくらん夕風も
建仁元年八月十五夜和哥所会
月前松風といふことを
月乃氣色こそ秋の浦なれ松風よ吹ま古ものかすま
八月十五夜十首哥奉りし時
津守国助

文永元五
九月十三夜
のかすまとこそ
しほのゆふ
権中納言定家
すまうのなるるろ
らもろもろ
一とのこいろ

浦人のたもとをさむみ夜ふけて
海士の月を
久堅乃雲井をみて鳥羽殿
堀河院御時百首哥奉りし時
権中納言国信
風ふく秋のしの中にてなみの間に
月乃宿もる
前大納言家信
風乃吉も心はるかに雄島
為仲朝臣東国へ罷下侍りけるに
吹まよふ秋風ふきぬ
```

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用
```

詞苑 清風

中務家の親王

家の前の萩の花の散

おこれていまも絶せぬ

中務宮家歌合

前権中納言匡房朝

文永七年八月十六夜

萩露

野月

千人百番

小山田のいほの菜つ小田の

遠仁元年八月十六夜

田家見月

万

万指

風そよぐ夕べのお花の夕涼み　大納言定房

もみぢゆく峯の月やどる門田かな　権大僧都門院大納卿

ひとりすむ月待つ窓のきりぎりす　津守伊国

夏ごろの月　時月

秋ぎりのまがきの菊のえだ高み　月

たえだえなれば時雨とぞ見る　同心を

夜ふかき入道雲の峯の松　法皇御製

百首のうち秋夕

もろ人のこころもそめぬ秋やとていかんん月みるこもろ人のこころ

月裏に首会

しらつゆのうすき衣手打ちかけて　前大納言実教

秋を待つ夜の月

山のとをしぐれて帰る時雨かな　幼名法師

建仁二年九月十三夜三十首歌　前嵐

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

弘安元年百首奉
お春銀雅有
弘長元年百首奉
第大納言為家
おなじ秋の林を
後京極摂政前太

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

今上御製

山路入道右大臣

三条入道内大臣

前参議教長

権中納言定家

従二位家隆

後京極摂政前太政大臣

蟬乃殻ハつくつくしともよさう

建仁元年九月十三夜五首奇よ和出

前大納言為氏

たゝ秋のつくつくしとみてきゝふるれハ蟬の声のみ

源親長朝臣

ふるそとも誰とへそう蟬の殻

守覚法親王家典侍

留めく稲つま風やそうらん

経信

権中納言匡房

秋の夜の中ま

平宣時朝臣

百首奇よ

二位家隆

百首奇よ

藤原為道朝臣

夕擣衣

風さむさそう砧の里ゟ

前中納言為守

百首奇よ

衣うつ

建仁元年八月十三夜和哥所会よ

右

夕つよおほつかさ

とをつけさこの声

聞くらん

右

春ふかみおほ

きタおおほつか

しもを降らん

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

月前擣衣

婦風も秋さむしの衣うつ
擣衣をとるも
今上御製
ふるさとのおもひやそそやあんうれへそそ衣うつ
九条右大臣
芳そそ風もたなひぬ高の秋の衣うつ也
百そし歌をもち時擣衣
左大弁俊綱
秋風の男山むこのさよ衣打ともまち遅をうん
秋の夜九時
右大納言為世

里人もさ衣打なむ秋風も深てきぬ月もすむ
同人の男山むこの秋の衣うつも
宮治百そ夜をも時擣衣
右大納言為氏
うつてきく我袖さえもあるや衣うつ
あきれも衣うつ借山松風さむき秋のね
新撰歌
里てきく秋風やさむんおもへんさ衣うつ也

おだまきの朝
きぬぎぬの別れを惜しみかねて
名殘をさそふ曉の鐘
百首哥
法印家隆
ねもなくうき夢のまくらかな
法印定家
おだまきの朝
法印定家
ふるさとの秋の夢を時雨のみ
弘安元年百首哥
入道前太政大臣
源氏朝臣
ふるさとの秋の夢を時雨のみ
洞院攝政前右大將家

おなじ心を
　　　

新後撰和歌集巻第十六

冬歌

初冬の心を

ふるさとの梅もまだきに匂ふらし

ひさしくなりぬ春の便り

初冬時雨

時雨つる

と詠じ侍りしこと

延保三年十月会の時

前参議雅有

秋霧月をそらも晴のあはれをそなる地

秋霧月をそらも晴のあはれをそなる地

前参議雅有

大納言隆博

冬歌

今こそ花のねぐらなるらめ

暮れぬとや急ぐ里の烟も

嵐よりもろき柴の戸に

平時範

露結為霜

百十一
[illegible]

百十一
[illegible]

伊勢
[illegible]

[illegible]

[illegible]

順徳院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みまもる小うめのやうてそ恋ひ
よみ人しらす
千とせ神あり玉ふ宮なれは
住吉社よりみくしけ
的なるこ月の中やみ
江安元年百首哥たてまつり時
ふる雪の実的なるこ月
入道二品親王性助
皇太后宮大夫俊成
千とせの春哥合よ
松原やをち波の花よこ
ふ島ふく世おうこ
今上御製
せんのこかまあのやうて浦風乃
寛治百首哥たてまつり時 浜千鳥
太宰権帥為仲
をさうちのうら汐浦風よ夕波さくなりけり
堀河院よ百そ哥のたてまつりけり時
権大納言公實

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

[illegible]

藤原顕仲朝臣

[illegible]

法三位為通

[illegible]

入道二品親王道助

[illegible]

竹王

[illegible]

光明峯寺入道前関白

[illegible]

一万六千首のそにおもてうつしうつしうつしうつしうつしうつし

右

[illegible]

前大僧正実伊

[illegible]

源朝長朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右大弁宰相資

[illegible]

[illegible]

法三位源親長

永福門院

とのつくりのそれも山川乃水

三十首之内

山家

前参議教長

院大納言典侍

寒夜聞砧

前中納言定家

通明法親王家五十首之内

嵐

前大納言公衡

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

百七
わくらうのまのこ
きをはそくるくま
ゆうんこひしきあと

門廿
阿良倒布理のまね
神と祈すめ
みくらをはきて
しと
わくらくの
まつくわを限

御人も和やまむ 一家の
ものの勝乃汁つ垣風
中勢の宗尊親王
そ今中よ
と納のまゆうくらせの山
雲

建保六年内裏三
百首
和

親王
名不告
たゝと
初冬時 堀
わくらをうきものの
わくらくの文聖のみ乃
もうへ
約垣の世
雲

拾遺 春
花あまた年百そ今めきれ汁そま
注画法ノ製
きよう乃のそも風さ
てら山のやま雲へぬう
入道親王乃覚
新うす
これをまた神さまつる雲ハ積りうえんつる
経三位隆教
そ今つる山の白雲
前大僧正道玲
これをまた神さまつる雲ハ積りうえんつる
そハ文杜乃あうう
権大納言師重

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

新しらみ　　右近中将冬基

ことしてもふる人を訪なまものおとうしろ雪

家六百番歌合　　拾塵法師

雪ふかくふりつもりぬる山ざとの人

住吉御法楽百首歌合　　前大納言良教

勇しつる年をいたゞきて白雪のふるをも

みる哉

入道前太政大臣

和名ノ通江淡井郡ノ
條ニアリ又万九ノ
ニモアリ
ソレニヨリテ考ルニ
ハヒノ間ノ誤ナラン

又一万三ノ
笠朝臣金村相撲山
作歌
ニハヒノ野ニテ神ケ
ノ御ヲアガマヒノ
ミコトニ

そでもいとゞぬるゝ雪の明ぬるに

中務卿宗尊親王

おもふ山ふもとの雪やあさぼらけ

万十

祝部成長

おもふことありてふる年の月日山ぢのね

の白雪

性助法親王家五十首歌　　津守国助

消あまのかるもをかけて引山風は一すぢ白雪

續拾遺集奏覧の日賜禄の

大納言為氏のもとにつかはしける

ふるとしの雪のしるしをかぞへつゝ

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

角鹿津棄船
時笠朝臣金村
作歌一首并短
歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後撰和歌集巻第七

離別の

後深草院御製

ながゆくも名残は惜しからん人留まりてもひとのおもかげ

菅原仲実朝臣伊賀守にまかりけるに

餞

春霞

春霞たつ

春霞たつ

春霞たつ

慶應乃閲

[illegible]

隆信朝臣

[illegible]

前大僧正慶舜

[illegible]

中務宗弘朝臣

[illegible]

おなじ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

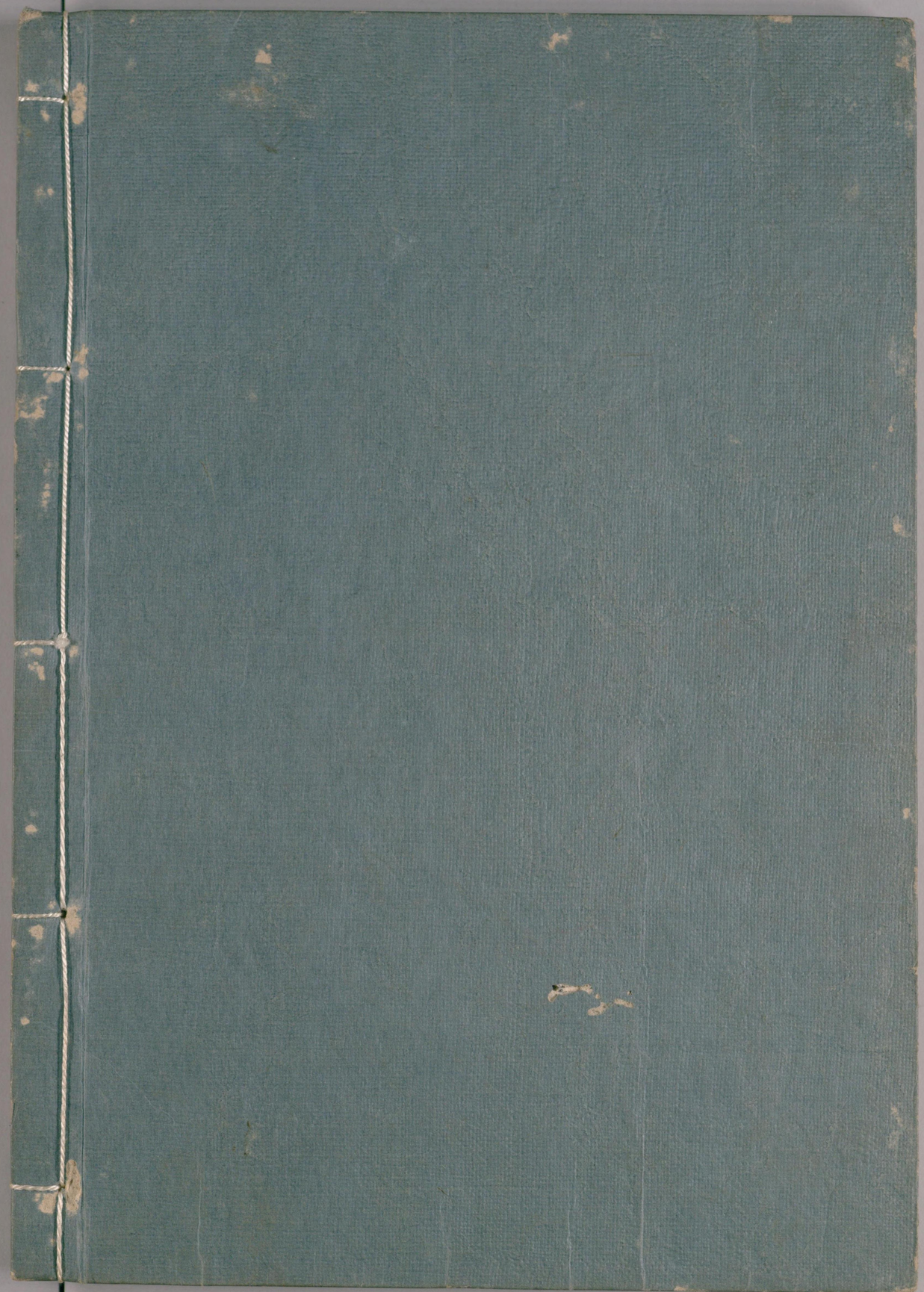
ガラス使用

853
166

3215

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用